



TITLE:

VOLPICELLIについて

AUTHOR(S):

CITATION:

VOLPICELLIについて. 静脩 1967, 3(6): 3-3

ISSUE DATE:

1967-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36377>

RIGHT:

VOLPICELLI について

L. M.

一昨年の秋、長崎大学から本学に集中講義に来られたY先生(京大出身)から、“イタリアの東洋学者 Zandoni VOLPICELLI (1856年ナポリで生れ、1936年長崎で歿)の著書 Chinese phonology がたしか学生時代に図書館にあったと記憶していますが、現在もあるかどうかしらべていただきたい。”との申出を受けたので、本館の総合カタログをしらべるとこの書物は本館へ大正9年著者寄贈で受入れて、在庫している事がわかった。しかもこの時は Volpicelli の著書として本学にあるのはこの Chinese phonology. Shanghai, 1896. 一点だけしかみつからなかった。その後しばらくして昨年5月、再びY先生が上洛された折、今度は“Volpicelli が Vladimir というペンネームで Russia on the Pacific and the Siberian railway を London で1899年に出しているはずだが、もしあれば、そのうちの一部分をコピーしていただきたい。”とおっしゃった。そこで総合カタログをみると Vladimir の著者名で、次の二点を見つけことが出来た。China-Japan War. Lond., 1896. (法学部所蔵)と、Russia on the Pacific and the Siberian railway.

Lond., 1899. (本館、法学部、文学部、所蔵)。このうち本館所蔵の Russia on the Pacific... は最も早く明治33年に購入しているが、そのカタログはタイプライターではなく、ペンで記述されている。書庫から現物を出して、タイトルページ、カバー、その他をみても著者名としては Vladimir としか書いてない。これらの図書を受入れた当時の本館のカタログは、いずれも Vladimir が Volpicelli のペンネームであることを知らなかったし、またふしぎに思ってもそれを調べる資料もまだそなわっていなかったので仕方なかったのだろう。しかしこれでは Volpicelli と Vladimir とは全く別人として扱われているわけである。私はついでに U. S. Library of Congress: Catalog of printed cards. 1946. を参考のためしらべてみたが、そこには、Vladimir, pseud.: Russian on the Pacific. see Volpicelli, Z. の目録がのっていた。さすがは L. C. であるといささか感心しながら本館でも早速 Vladimir, pseud. see Volpicelli, Z. との参照カードを作って繰込み、それまで Vladimir のか所にあった前記の2点のカタログは、いずれもヘディングを訂正して Volpicelli, Z. のところに排列した。これで本館では、はじめて Vladimir と Volpicelli が同一人物となることが出来たわけであるが、私は、このような機会を与えて下さったY先生に厚く御礼を申し上げたいと思う。(附属図書館)

文 献 複 写 室 か ら

今回諸般の事情により、テキスト複写をやめることになりました。

3月15日までに申し込まれた分については、従来通り複写いたします。